

文学7講義内容20 ―身近な生活のことばから文法を知る―

萩原 義雄

はじめに

国語学者故大野晋氏が岩波新書から『日本語練習帳』という書物を一九九九(平成十一)年に世に送り出し、此の書物はあらゆる日本語相の人々に日本語の手引き書として受け容れられたことはご存知であろうか？

四十五問から成る問題を通して、読者の日本語能力を診断するもので、はっきりものを云い、はっきりものを書く。このためには、ものごとをはっきり見定める必要がある。ことばの持つ性質を知るということは、例えば日本語になかに潜む「同音異義語」の微妙な意味の差異に敏感に気づくことでもある。再び、この大野晋氏の提示する日本語の世界を体感してみても如何と考える。

今、私たち日本語を母国語とする日本人が海外から訪れる日本言語文化を学ぼうとする人々の熱い眼差しに堪えうる状況にあるかといえ、かなり疑わしい様相であることは重々ご承知かと思われる。

こうした昨今、日本語を真剣に考え、学ぼうとする老若男女の人々が多くの講座にやってくるようになってきた。この人達は、複数の講座で複数の先生から日本語を学ぶことで、多くの多角的な知識を得ようとしている。彼等が得た知識は実際に海外からの学習者との異文化交流の実践へと移されるからだ。こうした一端を見据えながら、文学における日本語のことばの時間の単元の一つとして、この身近な生活のことばから文法を考えてみることにした。

「かわいい」と「かわいらしい」

☆彼からは「かわいいね」と言われるのと「かわいらしいね」と言われるのはどちらが嬉しいか？

子供服売り場に書いてある字は「かわいい服」と「かわいらしい服」はどちらのことばがこの場にふさわしい表現だろうか？

←

☆「かわいい」は主観。「かわいらしい」客観的な言い回しかた。よって、彼からは「かわいいね」服は「かわいらしい服」とするとよりふさわしくなる。

あなたにももらった↓「に」は主観的意味が強い。

あなたからももらった↓「から」客観的意味が強い。

助詞「は」と「が」の用法の違いは何か？

☆「は」がくるときは説明のとき。

☆ 五六 みわたせば 柳櫻をこきまぜて 都ぞ春の錦なりける

『枕草子』 春はあけぼの↓春はこういうものだということを説明している。

故に、「春があけぼの」では表現がおかしいこととなる。

★「は」と「が」の使い分けは感覚的に使い分けられていることが多いけれども、文法にしたがって使わないと正しい意味が見えてこない。

〔実例文章〕芥川龍之介『杜子春』の冒頭文

或春の日暮です。

唐の都洛陽らくやうの西の門の下に、ぼんやり空を仰いでゐる、一人の若者がありました。

若者は名は杜子春としゆんといつて、元は金持の息子でしたが、今は財産を費つかひ尽つくして、その日の暮しにも困る位、あはれ 憐あはれな身分になつてゐるのです。

〔回答〕未知の情報と既知の情報

未知十が十既知

既知十は十未知

〔質問〕「…が」はなぜ未知の情報か？ 「…は」はなぜ既知の情報か？

〔実用文章〕卒業証書

右の者は、本学普通科の全課程を修了したことを証する。

《応用設問1》次に示す広告文の語の用法を考えなさい。

- ① 味は、人なり。だしは、芸なり。〔キッコーマン〕
- ② いい音楽は、いつも新しい。〔CBSニール〕
- ③ あなたの夢は、僕らの夢だ。〔キリンビール〕
- ④ うちのカレーが、いちばんだね。〔ハウス食品〕

- ⑤ 若い街が生まれた。〔野村不動産〕
- ⑥ 送り上手が、増えています。〔日通航空〕

「それもそうだな」と「それはそうだな」

ある人の考え方について、太郎さん、次郎さんに意見を求めました。そのとき、

太郎さん 「それはそうだな」

次郎さん 「それもそうだな」

といった返事が返ってきました。太郎さんと次郎さんの回答は、或人の意見に対してどのような思いを述べているのでしょうか？

例文1 富士の白雪朝日に映えて 男同士で酌む酒は 明日の明るい夢がある 山は富士なら 酒は白

雪〔清酒「白雪」の歌詞〕

例文2 夏も近づく 八十八夜〔唱歌「茶摘み」〕

例文3 今宵は月も 出ぬそうな〔唱歌「宵待草」〕

例文4 戻る 戻る 胸もない もしも死んだら あなた あなた 泣いてくれますか〔歌謡「悲しみ

日本海」〕

《応用設問1》次の二文に見える「息も」「息をも」の意味・用法について考えてみよう。

○こころよき疲れなるかな／息もつかず／仕事をしたる後のこの疲れ〔石川啄木の詩〕

○鞆の風さえ 息をも継がず

「負けず嫌い」と「食わず嫌い」

「負けず嫌い」の「ず」は、「んとす」↓「うず」↓「ず」からきている。

「ず」・・・〔助動特殊型〕（○・○・ず・ずる・ずれ・○）推量の助動詞「うず」の訳。

「うず」・・・〔助動サ変型〕①推量や仮想の意を表す。・・・だろう。②意志や決意の意を表す。

「食わず嫌い」の「ず」・・・打消の意を表す。

『古語大辞典』小学館参照

よって、「食わず嫌い」の「ず」は、食べたくないという意志を表し、「負けず嫌い」の「ず」は打消を表している。

*東海道五十三次の静岡のあたりに「食わず嫌い」の「ず」と同じ用法が出てくる。

《設問1》

「考えた」「決心した」「決意した」「覚悟した」というそれぞれの語を文例を用いてその意味の違いを述べてみましょう。

《設問2》

「ナイーブ」と「天衣無縫」との意味の違いをそれぞれの文例を用いながら調べてみよう。